

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 9 月 7 日 (2006.9.7)

【公開番号】特開 2005-211379(P2005-211379A)
 【公開日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-031
 【出願番号】特願 2004-22575(P2004-22575)
 【国際特許分類】

A 6 3 H 17/26 (2006.01)

A 6 3 H 17/045 (2006.01)

【F I】

A 6 3 H 17/26

A 6 3 H 17/045

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 7 月 20 日 (2006.7.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明は、加工及び組立が容易で、これによって、製造コストの低減をはかることができる模型車両用サスペンション構造及び模型車両を提供することを目的とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

本発明のサスペンション構造及び模型車両によれば、部品構成が簡単になったため、加工及び組立が容易となり、製造コストの低減をはかることができる。また、従来と異なり、板バネ及び固定金具のプレス金型が不要となりイニシャルコストの削減につながる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

以下に説明する図 2、図 4 乃至図 6 では、車体 7 1 はサスペンション構造 1 近傍の一部のみを図示したものである。図 2 にサスペンション構造 1 の分解斜視図を示す。本発明のサスペンション構造 1 は、樹脂製の車体 7 1 の内底面に取付られるものである。棒状部材（トーションバー）2 0 は、鋼線から形成され所定のねじれ弾性を備える。棒状部材 2 0 の両端には、鋼線を環状に屈曲した第 1 環状部 2 1 及び第 2 環状部 2 2 が形成される。ピボットシャフト 3 0 は、円筒型であり第 2 環状部 2 2 に取り付けられる。ピボットシャフト 3 0 の一端には、第 2 環状部 2 2 が差し込まれるスリット 3 2 が形成され、第 2 環状部 2 2 をピボットシャフト 3 0 の一端からスリット 3 2 に差し込むことにより、第 2 環状部 2 2 がピボットシャフト 3 0 に固定される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

第2環状部22がピボットシャフト30の一端からスリット32に差し込まれた状態で、金属製の固定リング40がピボットシャフト30に取り付けられる。この固定リング40によって、スリット32から第2環状部22が脱落することを防止される。また、固定リング40がピボットシャフト30のスリット32を設けた端部から脱落することを防止するために、ピボットシャフト30の一端側でその全周にわたって突出条31が設けられる。突出条31は固定リング40に当接して、固定リング40の脱落を防止する。スイングアーム50の基端側は、ピボットシャフト30の他端側に取り付けられ、ピボットシャフト30と一体となって所定範囲で回転する。また、スイングアーム50の先端側には走行転輪74（図示しない）が回転可能に取り付けられる。車体71の側面には、ピボットシャフト30を収容する管状開口部76が形成されている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

【図1】本発明のサスペンション構造を備える模型戦車の側面図である。

【図2】本発明のサスペンション構造の分解斜視図である。

【図3】本発明のサスペンション構造の分解側面図である。

【図4】棒状部材を車体底面に取り付けた状態を示す上面図である。

【図5】本発明のサスペンション構造の組立状態を示す斜視図である。

【図6】本発明のサスペンション構造の組立状態を示す平面図である。

【図7】従来の模型戦車の側面構造図である。

【図8】図7の模型戦車に用いるサスペンション構造の平面図である。

【図9】図8のサスペンション構造の斜視図である。